



あゆみ

No. 158

令和 3 年 1 月 15 日発行

編集 発行：社会福祉法人 啓明会 苓山寮・第二苓山寮
〒863-0006 熊本県天草市本町下河内 680

TEL 0969-22-5339・0969-22-1766 FAX 0969-22-5090

E-mail reizanryou@miracle.ocn.ne.jp・reizan2@muse.ocn.ne.jp

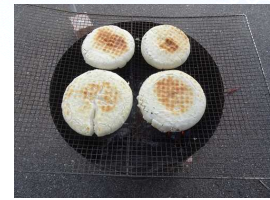
社会福祉法人啓明会ホームページURL <http://keimeikai.amakusa-web.jp/>

施設の旬の話題を「レイザンTOP.I.X」にて更新中です。



令和三年

新年のご挨拶を
申し上げます



「希望の灯」

施設長 鮎田 一夫

受け入れます。はばたきは令和三年度に改修します。コロナ自粛で窮屈な生活をグル

新年明けましておめでとうございます。新
型コロナに明け暮れた令和二年が終わり、新
しい年が始まりました。根拠は何もなくても
年の初めは前途に希望があるように思えるも
のささやかな希望の灯になっているものと
のです。V・フランクは「夜と霧」の中で
「今日は昨日より少し大きなパンがもらえる
の夢でしたので、やっと実現することです。
かもしれない」というようなほんの些細な希
望が、極限状態にいる人間を生かすことがで
きると書いています。この厄災の収束は未だ
見えませんが、私達は各々の希望の灯を絶や
すことなく暮らしていきたいものです。薄く内
向きの姿勢になりがちと言われてい

とところで、第二苓山寮に「はばたき・はち
まん・浜荘」という三カ所のグループホーム
がありすが、老朽化等の問題がそれぞれに
ありました。その解消のために新しい建物の
建設及び購入した民家の改修を行いました。
民家の方は「カナン」と命名し、はちまん
居た四名の利用者が十二月から移り住んで
います。新しい建物は「つばさ」と命名し、
はばたきの半数と浜荘の利用者が四月から
生活が、少しずつでも進めることを年頭の
希望する予定です。つばさではショートステイも

サービスの現場より

『施設での新型コロナウイルス感染症への対策』

支援課長 島内 寧



コロナ禍の中、私達職員が実施中のコロナ感染防止対策及び発症者が確認された時の対応に関してご報告致します。施設での対応としては、職員が待ち込む事を前提に、対策を実践に移しております。

職員の対応

- ①出勤時は検温し検温表に記載。異常があれば上司に報告し、休んでもらう対応としております。
- ②職員は勤務日、休日関係なく外出時はマスク着用。業務中もマスクを着用です。
- ③一日の行動記録を各自記載し、残します(例…何処に行つて、どうした、誰と会った等)。
- ④職員更衣室(男女)や事務所、施設長室は時間を決めてオゾン燻煙消毒を実施(毎日)しています。
- ⑤一日に三回手摺りやドアノブ、職員の机、車椅子等を次亜塩素酸ナトリウムにて拭き上げています。
- ⑥職員は食事中会話禁止です。
- ⑦職員の会食も自粛してもらっています。
- ⑧職員が遠出(北海道や関東、関西、福岡、沖縄)しなければならぬ時には、帰って来た際にPCR検査をし、陰性であれば出勤とします(冠婚葬祭、出産等の場合は検査費の半額は施設負担。それ以外は実費)。
- ⑨職員の家族が前述の地域から帰省される際も、同様とされています。
- ⑩天草地域医療センターの感染管理認定看護師より感染対策に関しての講習を十一月九日に実施しました。
- ⑪その後、防護服ガウンテクニク講習及び感染症対策を題材としたDVDを全職員が視聴しました。
- ⑫施設にてクラスターが発生した際のゾーニング訓練を十二月八日に実施し、十八日に再び感染管理認定看護師からアドバイスをもらいました。
- ⑬十二月中に再びガウンテクニク講習を実施しました。

⑬一月十三日に二回目のコロナ発症時対応訓練及びゾーニング訓練を実施しました(前回の反省を踏まえて改良版を実施しました)。

利用者の皆さんへの対応

- ①食事毎に手指消毒を実施。昼食前は十分間という時間を設け特に入念に消毒してもらっています。
- ②受診時はマスクの着用。帰寮された際に手指消毒をしていただいています。
- ③一時間毎の施設内の換気を実施中です。
- ④利用者の方で、マスクがどうしても出来ない方が半数以上おられるので、利用者の方に関しては、施設内でのマスクの着用はしていません。
- ⑤利用者の方の外食や外泊、買物等は自粛してもらっています。その代わりに、人のいない場所へのドライブ等に関しては実施しております。
- ⑥一月四日から、マスクの着用が出来ない方に対して、ガーゼマスクの着用を試み、少しでも慣れてもらふ事を目的とした練習を開始しました。

施設の対応

- ①マスクやガウン、手袋、フェースシールド等を約三ヶ月分購入し備蓄しています。
- ②冬の帰省は中止。御家族の面会に関しても、現段階ではガラス越しでの面会のみ可としています。
- ③御家族以外の来客に関しては、玄関で検温し、基本的に玄関での対応としていますが、やむを得ない場合は施設長室もしくは相談室で対応しています。

このような対応や訓練を重ねていく事や全世界で感染者が毎日増えている現実を目にする事で、利用者の皆さんはもちろん、職員や職員の家族を守るという気持ちが一層強くなり、全員が施設にコロナを持ち込まないという目標に向かって取り組みんでいます。あと一年という気持ちでもうひと踏ん張り頑張つてまいります。

『ゾーニングについて』

看護師 上嶋 知子



令和元年度より新型コロナウイルスと初めてウィルスが、季節問わず猛威を振るっております。看護師として、ニュース等で病院や施設でのクラスター発生を見て、あつてはなりません。施設内で感染症が発生した時に即時対応し感染を最小限に抑え、利用者の皆さんや職員の安全を守るために、対策に有効なゾーン分け(ゾーニング)を検討し訓練を行いました。

私は、第二茶山寮及びグループホームはばたきでの発症時のゾーニングを担当しました。ゾーニングのポイントとは汚染区域と清潔区域を明確に区別すること、区域の境界が明確になるようにすることです。病院とは違い感染部屋などはありません。汚染区域、清潔区域を分け、防護服を着用してないスタッフが感染したり、清潔区域に感染者が発生しないようにゾーニングを設定。部屋で安静にできない人や見守りが必要な人のことを考え、何度もゾーニングを変更し、必要な設備を設置しました。不明点があつた際には、看護師同士で話し合ったり、感染管理認定看護師の方にアドバイスをいただき、改めて職員と設備を再考し、十二月十日に第二茶山寮、十二月十五日にグループホームはばたきで訓練を実施しました。第二茶山寮でうまくいかなかった点を検討・改善することでグループホームはばたきでスムーズにできたり、新たな問題が生じたりしました。今後も問題点を検討・改善することで、いざという時のために職員が安心できるようにしていきます。

『ガウンテクニックについて』

看護師 田中 美奈子



感染症の有無にかかわらず、血液や体液、排泄物、粘膜や傷のある皮膚は感染性があるものとして取り扱わなければなりません。普段からガウンや手袋を使用してケアを行っています。誤った手順で着脱を行うと、支援を行う職員が感染するリスクや、病原体の運び屋となってしまう可能性があります。そこで全職員を対象に、ガウンテクニックの方法を確認し、着脱の訓練を行いました。

新型コロナウイルス感染症対策時には、普段とは違い長袖のガウン、フェイスシールドを使用します。最初は、着慣れないガウンの中は汗で蒸れてしまうことや、自分の息で曇ってしまい視界不良になるフェイスシールドに戸惑いもありました。また実際に着用してみると、得体の知れないプレッシャーを感じ、緊張感漂う空気になりました。訓練の中では、誰かと確認し合いながらゆっくりした方が確実だという意見や、普段から意識してガウンを脱ぐようにしたいといった感想が聞かれました。そしてなによりも、練習だけど脱いだ時の職員の安堵感あふれる笑顔はとても印象的で、それだけ職員全体が真剣にコロナ対策に向き合っていることを再度感じ取れました。

この訓練が活かされることなく、コロナ禍が過ぎ去ってしまったと心底思います。それでも予断を許さない現状に、いつでも施設内で対応できるような態勢を整えておかねばなりません。利用者の皆さんと職員の安全が確保できるよう、訓練を続けていきます。

『私の担当利用者さんへの取り組み』

支援員 濱 陸史



私が担当させて頂いているTさんは、恥ずかしがり屋で何事にも遠慮がちです。活動もあまり顔を出さず、一日の大半を居室で過ごされていました。どうにかして活動に参加してもらい、居室での時間を減らすことが出来ないか、これまで様々な取り組みを行って来ました。印鑑押しやお茶当番、再生紙作り等の役割を持つて貰い、意欲向上を図りましたが、職員が声掛けしないと実施される事はなく、役割も与えられて『嬉しい』というよりも『面倒くさい』という感情が強かったように感じました。私達支援員は、支援という面において、どうしても利用者さんのマイナス部分に目が行きがちです。「〇〇が出来ればもっと支援の幅が広がるかも」や「〇〇が出来ないから、もっと声掛けを増やしてみよう」と『出来ない事を出来る様に』という理想を掲げてしまいます。前述した役割は支援員の提案であり、Tさんの望んだことでは無く『面倒くさい』という思いが勝ってしまったのは当たり前だったのかもしれない。

私はTさんが活動に参加してくる、Tさんが好むようなアイデアはないかと模索していました。そんな中、上司からTさんにしか出来ない特別な役割として「歩行時に先頭に立つて先導してもらい、他の利用者さんが職員から離れて先に行ってしまうようにして貰うのはどうか」という助言がありました。普段はあまり歩行には参加されないのですが、合同歩行のような周回する毎にスタンプが貯まるゲーム性のある活動には好んで参加されます。①歩行は嫌いでは無い②特別な感やゲーム性があれば参加する③優勝や誉めて貰うことを好まれるというTさんの背景を元に、Tさんに先頭と書いてある腕章を付けてもらい、特別感を出して参加を促し、称賛の声掛けを多くする事を実践しました。腕章の効果は絶大。「あー面倒くさい」と言いつつも、自主的に参加が見られる様になった事が私にとつて一番嬉しいことであり、Tさん自身も今では活き活きと先頭を歩いてくださっています。出来ない事を出来る様にしていくのでは無く、出来る事の更なるステップアップを目指す。見方や考え方を変えることで、支援の幅は広がることを知りました。

『私の担当利用者さんへの取り組み』

支援副主任 山口 智史



私が担当させて頂いているTさんは、利用者さんの中でも一目置かれる存在で、リーダーシップが取れる方です。リーダーシップを発揮出来るように、毎日、活動予定を朝礼時に発表、活動内容を把握し、自らが先頭に立ち活動が出来るように支援を行って来ました。初めは、嫌々ながらその日の活動内容を発表してくれていましたが、少しずつ慣れ、自分から活動内容を聞きに来てくれるようになり、毎日発表してくれるようになりました。しかし、自分の機嫌で左右されるところがあり、自分の納得がいかなかったところがあると活動に参加しなかったり、他者に対して強く当たったりすることがあります。又、外出や映画鑑賞などニーズも多い方で、本人のニーズを叶えることを目標に活動をしてもらっていました。そんな中で、コロナウイルスが流行してしまい、本人のニーズが叶えることが難しい状況となつてしまい、施設内で出来る行事やイベントを本人と相談しながら、バーベキュー、ビアガーデン、お好み焼きなど、準備から片付けまで一緒にを行い、一緒に楽しみを共感出来るように努めてきました。今後も、今できることを可能な限り叶えられるようにコミュニケーションを多くとり、楽しみを共感しながら、楽しく施設生活を過ごして頂けるように寄り添った支援をして行きたいと思っています。

クリスマス会

12月24日にクリスマス会を行いました。例年、2施設合同で実施しておりましたが、コロナ感染防止のため、各施設での開催となりました。紙芝居やカラオケで盛り上がり、思い出の写真を集めたDVDでは、大きな歓声が上がりました。サンタさんからのおプレゼントに笑顔溢れ、昼食では特別サイズのハンバーガーやケーキをお腹いっぱいになるまで食べ、皆さんとても喜ばれていました。



踊って！歌って♪食べて…♡みんなで楽しい一日だったね！！

忘年会

いつも盛大に行っている忘年会。今年は各班、各施設に分かれて小規模での忘年会となりました。お弁当とケーキを食べたり、皆で鍋を作って食べたり……。食べてばかりの忘年会となりましたが、年末年始に体調を崩さないために皆で食べて栄養をつけました！これで風邪には負けないぞ！！来年は楽しい一年になりますように……。



たくさん食べて、来年も明るく元気に過ごすぞ~~~~~♪

永年勤続表彰

1月4日の御用始め式の際に、施設に長い期間貢献して下さいった職員の皆さんへ感謝を込めて表彰式がありました。

10年・・・吉浦富枝さん（芥山寮）

20年・・・菊地泰博さん、吉鶴かおりさん（芥山寮）

30年・・・橋口敬さん（第二芥山寮）

4名の職員の皆さん、受賞誠にありがとうございます。また、長い間施設に貢献いただきましてありがとうございます。施設の伝統は、皆さんのおかげで引き継がれているといっても過言ではありません。今後もますますのご活躍とご発展をお祈りしています。



鬼火焚き

1月8日に鬼火焚きをして、正月飾りについてきた鬼（悪霊）とコロナウイルスも一緒に追い払う予定でした。しかし、今シーズン最強の寒波襲来で天草でも雪が積もり、あまりの寒さに外へ出ることが出来ず、中止となりました。それでも、地元の神社から頂いた鏡餅を焼いて食べました。大きい物は30センチ程あり、ドラム缶でないと焼けません。寒い中時間を掛けてじっくりと焼くことで、みなさん美味しそうに食べておられました。これで、一年間健康に過ごして頂けると思います。



今年も利用者の皆さんやご家族の皆様、職員一同が元気で健康に過ごせますように・・・

熊本障がい者芸術展

熊本障がい者芸術展が12月22日から26日まで熊本県立美術館分館で開かれました。第一山寮が8点、第二山寮が5点の作品を出展しました。出展された利用者の皆さんは、時間がある時に少しずつ作成され、見事な作品に仕上げられました。毎年芸術展の最終日には見学へ行くのですが、今回は新型コロナウイルス感染症対策のため断念し、作品の出展のみ行いました。次回もより多くの作品が出展出来るように利用者の皆さんと協力して頑張りたいと思います。



皆さんの作品に力をもらいました！！感動をありがとうございます！！

お祝い

十二月十四日に第二山寮の橋本定支援員に第一子の陽冬（はると）くんが誕生しました。おめでとうございませう。陽冬くんの健やかな成長を願っております。



行事予定

（変更あり次第、連絡します）

一月 二六日 第五回管内研修

二月 二日 えがおの会
三日 節分豆まき
配置医来寮

二四日 亀川小学校駒打ち体験



三月 二日 えがおの会
三日 ひな祭り交流会会
配置医来寮

十六日 事業計画会議
二三日 生活作業功労者表彰
二四日 花見会



編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年からのコロナ禍では、日本全体が感染の動向に一喜一憂する一年でしたが、一月七日に二度目の緊急事態宣言が発出され、また今年も新型コロナウイルス感染症に振り回される一年となりつつあると感じました。施設においても、利用者の皆さんの命の安全・安心を最優先に考え、毎日の室内換気や、活動後の手指消毒、マスク着用を励行しています。あつてはならないことですが、万が一施設内にて感染症が発生した場合を想定し、施設のゾーニング訓練や職員のガウンテクニック訓練を回数を重ねることによって、利用者の皆さんの命を守るよう、さらには職員とその後ろにいる家族も守れるようにと日頃から取り組んでいます。この苦境を皆で一丸となつて乗り越えていきましょう。

